

2025 年 11 月 21 日

[配信枚数 5 枚]

発信元 滋賀大学総務課企画・広報室

報道関係者 各位

滋賀大学サステナウィーク 2025 開催

テーマは「わからん。- unknown -」 “わからない”から始める、持続可能な学びの探求

滋賀大学地域連携教育推進センター(センター長 柴田雅美)は、学生・教職員・地域の皆さまと共に学び合うキャンパスイベント「滋賀大学サステナウィーク 2025」を開催します。

本イベントは、SDGs(持続可能な開発目標)を身近なテーマとして捉え、身の回りの課題や社会の変化を“自分ごと”として考える機会を提供するものです。

【滋賀大学サステナウィーク 2025】

期 間:2025 年 11 月 25 日(火)～11 月 28 日(金)

会 場:滋賀大学彦根キャンパス(教室・生協前広場ほか)

※駐車場に限りがあるため、公共交通機関または近隣の公共駐車場をご利用ください。

対 象:どなたでも参加可(入場無料)

※一部の講座・ワークショップは事前申込が必要です。

主 催:滋賀大学サステナウィーク実行委員会(滋賀大学地域連携教育推進センター)

【概要】

【サステナウィークとは】

「サステナウィーク」は、学生・教職員・地域住民が垣根を越えて参加できる、持続可能な社会について考えるキャンパスイベントです。彦根キャンパス内の教室や生協前広場などを会場に、講演、展示、ワークショップなど、18 企画を実施し、多様な形で学びの輪を広げます。

【今年のテーマ:わからん。- unknown -】

VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代を生きる私たちにとって、“わからない”という状態は避けるものではなく、新しい問いを生み出す出発点です。

「わからん」という滋賀の言葉には、親しみとともに探究の可能性が込められています。

本イベントでは、わからなさの中から新たな視点や学びを発見し、学生・地域・社会が共に考え、創造していく時間を目指します。

【プログラム・参加方法】

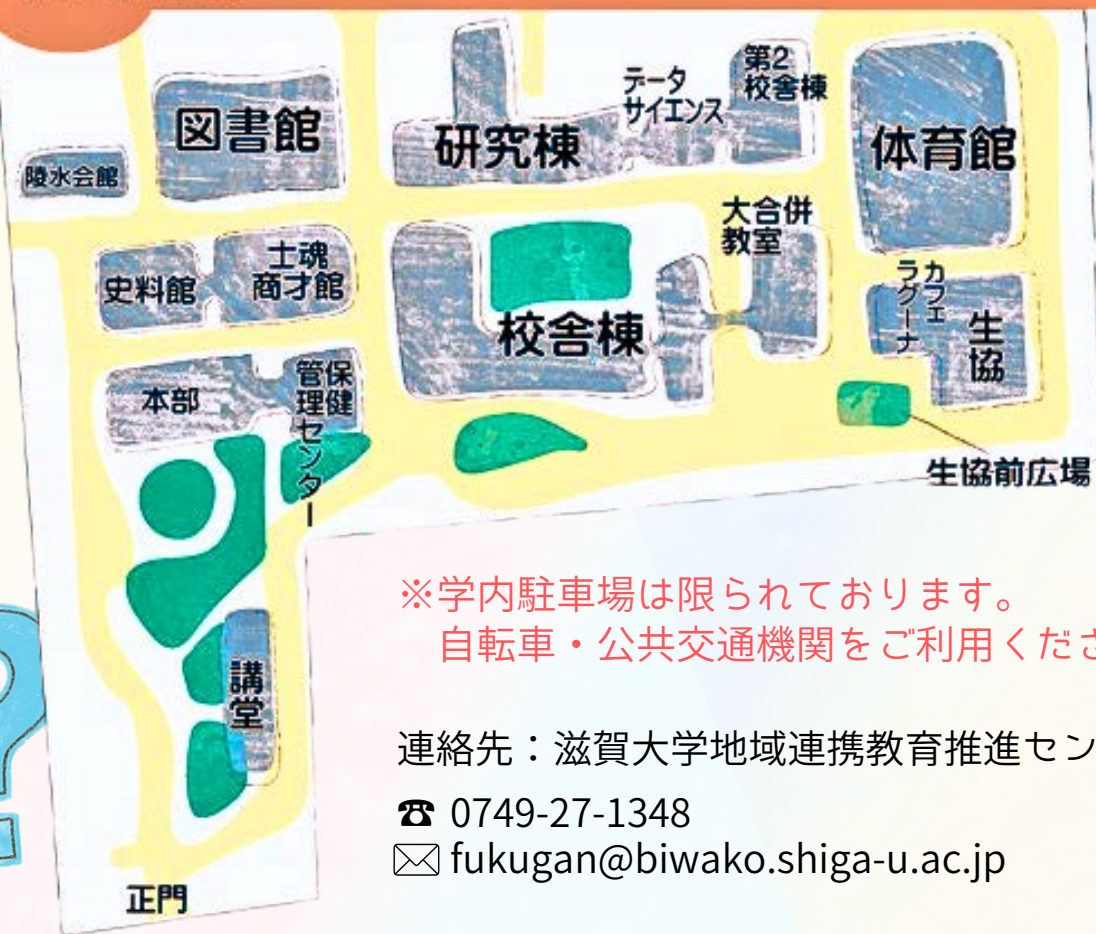
各イベントの詳細や参加申込方法は、パンフレット(添付資料)および滋賀大学 HP「大学からのお知らせ」(<https://www.shiga-u.ac.jp/>)に掲載しています。

●本件に関するお問い合わせ

滋賀大学地域連携教育推進センター 担当:柴田

TEL:0749-27-1348 E-mail:fukugan@biwako.shiga-u.ac.jp

校内MAP



※学内駐車場は限られております。
自転車・公共交通機関をご利用ください。

連絡先：滋賀大学地域連携教育推進センター

☎ 0749-27-1348

✉ fukugan@biwako.shiga-u.ac.jp

彦根MAP



アクセス

JR琵琶湖線（東海道本線）彦根駅西口よりお越しください。

①大学直行バスで約9分

②湖国バスで約5分

「ビバシティ（カインズ・パリア前・南彦根駅東口経由）」行で乗車

「彦根大」下車、徒歩約2分

③その他

タクシーで約5分（900円程度）／自転車約10分／徒歩約25分



2025 滋賀大学 サステナウィーク 11月25日(火)~28日(金)

サステナウィークとは？

持続可能な社会に向けて
講演会・展示・ワークショップ
などの各種イベントを
1週間に渡って行います。

今回のテーマ

わからん。
-Unknown-

主催：滋賀大学サステナウィーク実行委員会

Week for sustainability program

サステナウィーク2025 2025年11月25日～11月28日

サステナウィーク2025の各企画の詳細は、
右のQRコードからHPをご覧ください。
皆さん、ぜひご参加くださいね♪

※事前申し込みが必要な講座は各QRコード、
またはHPからお申込みください。



今年のテーマ「わからん。－Unknown－」に込めた想い

いま私たちは、変化が激しく、先が読めないVUCAの時代を生きています。正解がない中で、私たちはつい「わからない」ことを恐れたり、避けたりしてしまいがちです。けれども、本当に大切なのは、「わからん」と投げ出すのではなく、「わからん。」と一度立ち止まり、考えることだと思います。「わからん。」という言葉には、無知の宣言ではなく、思考の出発点という意味を込めています。不確かさを受け入れ、問いを持続ける。そのプロセスこそが、新しい発見や創造を生む原動力になるのではないのでしょうか。今年のテーマ「わからん。－Unknown－」は、そんな時代に生きる私たちが、“わからんい”という状態を恐れずに向き合い、共に考え、探求していくための象徴です。答えのない問いに挑みながら、自分たちなりの意味を見出していくイベントにしたいと思います。



体験

みんな知ってる？ 国立大学で働いている障害者のこと！

ハンディキャップのある人達が社会から取り残されないために、本学の障害者雇用について一緒に話し合いませんか。

企画：下井 一夫（滋賀大学生）

13：00～14：20 図書館2F リブコモ③

25
(火)

農トーク！

農業の人手不足をテーマに、若手農業者のリアルな声を聞きながら、農業の未来について一緒に考えるワークショップです。就農のきっかけや現場の課題を共有し、参加者同士で意見を交わしながら、新しい可能性を探ります。

講演者：田中友弥（滋賀大学生 / 株式会社O.SHINGULARTY）
企画：中野ゼミ お米グループ

14：30～16：00 校舎棟1F 4番教室

25
(火)

カナダ・トーク

カナダスタディツアー参加学生が、現地での学びや国際課題を紹介。海外留学や多文化共生について語り合う体験型ワークショップ「カナダ・トーク」で、新たな視点に会おう。カナダ土産のお菓子あります！



講演者・企画：松山 陣 / 服部 夏希（滋賀大学生）

14：30～16：00 大学生協2F ゲストルーム

26
(水)

海洋プラスチックから作るキーホルダーづくり

◎キーホルダーづくり（ドネーション） ◎コースターづくりのデモンストレーション

海洋プラスチック、びわ湖プラスチック、ペットボトルキャップ、などを細かく粉碎した物を材料とした、様々な作品を制作します。これからの私たちの大切な棲家である地球のことを一緒に考えながらワークショップを開催いたします。

シルクスクリーンプリントワークショップ（ドネーション 100円から）

お持ちのTシャツや手拭い、トートバックやスウェットなどにPOWオリジナルロゴを好きな場所にプリントしてみてください。可愛い雪の結晶のロゴをあしらって冬を楽しみましょう♪

ボタン作りワークショップ

海に流れ着いたプラスチックのかけらやペットボトルキャップなどからボタンを形作り、これから考え続けなければならない事を留めておくためのシンボルをつくった。この小さな輪はやがて遠心力をもって広がって行くだろう。簡単なことなんて一つもないけれど、そのきっかけを作ることは誰にでもできる。この機会にご自身の手で海洋プラスチックボタンを作ってみてください。

主催・協力：FREE BYRD / POW CREW企画：島本 聖史 氏（POW JAPAN）

10：30～13：00 生協前広場

27
(木)

「学生とかるたで語る」男女共同参画研修会

「ウィズ男女共同参画かるた」を活用し、これから社会に出る学生の視点と社会人の視点、それぞれの世代や立場からジェンダー平等に対する考え方の違いを共有し、お互いを知ることで働き方を見直す機会とします。ジェンダーとは社会や文化によって形成される「男らしさ」や「女らしさ」といった、性別に関する役割や期待を指します。

講師：彦根市男女共同参画地域推進員

主催・協力：彦根市企画振興部企画課女性活躍推進室 担当教員：柴田雅美

10：30～12：00 校舎棟1F 2番教室

28
(金)

本質を捉えるための思考 やってみよう！本質観取（ほんしつかんしゅ） 事前申込有×切11/25

正課授業を公開で行います。「本質観取？」ずいぶん聞き慣れない言葉だけど一体なんだろう。多様な立場の人たちと対話による共創的な課題解決を实践する上では、本質を捉え、合意を取りながら言葉を定義していく過程がとても重要。では、本質を捉えるとはどのようにすればできるのだろうか。本質観取を体験することで思考の幅を広げてみよう。

講師：山本 和則 氏（哲学プラクティショナー／余白製作所）

主催：びわ湖東北部地域連携協議会 協力：沼波 洋子さん（てへべろ社会科実験室）
担当教員：柴田雅美

14：30～16：00 校舎棟2F 7番教室

28
(金)



人材戦略について考える「企業における協同労働を活用した人財育成」

正課授業を公開で行います。話題提供者にアデコ（株）未来共創部の吉田智之さんを迎え、哲学対話による問い立てと対話で、授業テーマ「働くを問う。どうすれば働く意味を見つけられるのか」を参加者と一緒に考え、深めましょう。関心のある方ならどなたでも参加可。

講演者：吉田 智之 氏（アデコ（株）未来共創部 部長）

主催・協力：ワーカースコープセンター事業団 滋賀事業本部 担当教員：柴田雅美

10：30～12：00 校舎棟2F 8番教室

25
(火)



ピンクリボンひこねー見逃さないで、カラダのサイン 乳がんのセルフチェックを学ぼう！

彦根市において全ての女性、その家族にガン検診の必要性や理解を深めて頂き『乳がんの早期発見、早期検診、早期治療の大切さを伝える』啓発活動をしています。この活動を通じ、乳がんから引き起こされる悲しみから一人でも多くの人を守ることを目指します。

主催・協力：ピンクリボンひこね実行委員会

企画：ニシヒロジュリアユミ（滋賀大学生）

11：30～13：00 生協前広場

25
(火)



MOTTAINAIスムージー

規格外の野菜や果物を、美味しいスムージーに変身させました！地元農家からいただいた食材で作る「もったいないスムージー」を飲みながら、食の持続可能性について一緒に考えてみませんか？



企画：松山 陣 / 田中 美聡（滋賀大学生）

12：00～12：50 生協前広場

26
(水)

STUBEのフェアトレードフリーコーヒー

初めまして、STUBEはなるべく廃材で作ったハンドメイドのちょっと地球に優しいキッチンカーです。東ティモール産のオーガニック&フェアトレードに拘ってコーヒーを滋賀を中心に提供させて頂いています。ある方はマイコップを持参して頂けたら嬉しいです。コーヒーを飲みながらいろいろ話しをしましょう♪



主催・協力：STUBE 企画：島本 聖史 氏（POW JAPAN）

10：30～13：00 生協前広場

27
(木)

ロケットストーブで炊き出し

ロケットストーブを用いて、彦根産の野菜をふるまいます！ロケットストーブは、少ない薪で高い燃烧効率を実現するストーブです。災害時には瓦礫や小枝を燃料として利用することもできます。調理体験を通じて、地域資源の循環や防災の重要性について考えるきっかけを提供します。

主催・協力：彦根市赤十字奉仕団 / 滋賀大学サスティナビリティ研究会

企画：宮川莉緒（滋賀大学生 / 滋賀大学サスティナビリティ研究会）

12：00～12：50 生協前広場

27
(木)

障害のある人と一緒にいろいろな花を植えませんか？ ※小雨決行

一般就労に向けて取り組まれている「働き教育センター甲良（就労移行支援事業所）」の利用者さんと一緒に学内にあるバス停横の花壇に花と一緒に植えませんか。



主催・協力：働き教育センター甲良 企画：下井 一夫（滋賀大学生）

10：40～12：00 学内バス停横の花壇

28
(金)

展示

学生の声を集めたら何が見える？ 男女共同参画×共感メーター

男女共同参画を啓発するためにつくられた彦根市オリジナル「ウィズ男女共同参画かるた」の札を見て、あなたの「共感度」を1～10の目盛りから選んでみてください。

主催・協力：彦根市男女共同参画地域推進員 / 彦根市企画振興部企画課女性活躍推進室

校舎棟2F 廊下

19
(水)
～
27
(木)



「雪が好き！だから地球を守りたい！」「私の好き、私の未来。どうしたら守れる？」

プロスキーヤーでPOW JAPANアンバサダーの中島力さん（近江八幡市出身）から、好きを追求し、その環境を守るためにこれまで歩んできたことをお話しいたします。滋賀大学の皆様と一緒に、好きだから守りたいという気持ちから未来を守ることにについてトークセッションをさせていただきます。これからのキャリア進路にも気づきとなる時間になると思いますのでぜひご参加ください。

講演者：中島 力 氏（プロスキーヤー / POW JAPAN）

主催：POW JAPAN / POW CREW 企画：POW JAPAN 島本 聖史

13：00～14：30 校舎棟1F 2番教室

27
(木)

日本語からジェンダーを考える。～日本語表現と自分らしさ～

私たちが普段何気なく日常会話に使っている日本語。「私」「僕」「俺」など…あなたは数多く存在する一人称の内、どれを使用していますか？私たちと共に日本語におけるジェンダー表現と表象を学び、自分らしさについて一緒に考えてみましょう。

講演者：富川 拓 氏（聖泉大学准教授、滋賀大学非常勤講師）「日本文化からジェンダーを考える。」（学生自主企画プロジェクト）

主催：日本文化からジェンダーを考える。 協力：市民団体くれよん

16：10～17：40 校舎棟1F 1番教室

27
(木)

哲学対話は組織づくりに役に立つのか？ 事前申込有×切11/25

「共創ゼミナール」。企画者の沼波（てへべろ社会科実験室）は、哲学対話の実践を通して、「より良い意志決定や議論のためには、対話や会話を充実させることが大事」という仮説を持つに至りました。滋賀で活動の場を広げる哲学プラクティショナーの山本氏との対談形式で、組織の構造「三角形」をキーワードに、組織で哲学対話をする意味を探究します。

講演者：山本 和則 氏（哲学プラクティショナー／余白製作所） / 沼波 洋子 氏（てへべろ社会科実験室）

主催：びわ湖東北部地域連携協議会 担当教員：柴田雅美

16：10～17：40 校舎棟2F 7番教室

28
(金)

